

ポリクリを終えて

歯学科5年 市川 華帆

大学5年、ポリクリが始まりました。4年間の臨床歯学の学習を活かし、知識、技術の統合の為、班員7名で、11科を回りました。

ポリクリ以前は決められた治療を学び、それを模型で行うといった実習でしたが、ポリクリが始まり、対“人”を経験しました。

私達5年生は、1年生の時からコロナ禍であり、班員のマスク下の顔もあまり見ない中、口腔内と向き合いました。濡れ感のあるピンク色、その中に白い歯。プライベート空間を覗き見しているような気持ちになり、震えながらミラーを入れ、あたふたしました。

その後、様々な実習を相互で行いました。患者さん側も経験することにより、手技の違いによって受ける印象の違いを学びました。治療を行うために必要な事と患者さんの痛み、不快感との兼ね合いを考え、それに伴った声掛けの仕方や必要性も学びました。班員は個々人特徴があり、嘔吐反射や知覚過敏とそれぞれに対応が必要で、心理や社会的側面なども含めると想像以上のケースパターンがあることを知りました。

現在は臨床実習が始まり、実際に患者さんを担

当させて頂いているのですが、ポリクリのお陰で、口腔内の抵抗は一切なく、一人一人の患者さんと向き合うことができています。これからも様々な事を学び吸収して成長していきたいと思います。

歯学部5年 土谷 瞭斗

3年生の頃、廊下ですれ違った2個上の先輩方が緑衣を着ていたのを見て、きっと非常に大変な実習をしているのだろうなと思っていました。そんな僕たちもあっというまに5年生になり、緑衣を着る学年になりました。5年生になり半年が経過しましたが、思い返してみるとCBT・OSCEの勉強を頑張りながらも、常に焦燥感に駆られていた日々でした。そんな半年で最も多くの時間費やした授業がポリクリでした。ポリクリは簡単に言ってしまうと臨床実習の前に行う予備実習で、様々な課題を行います。ポリクリが他の実習と一番異なる所は、生徒同士の相互実習があることだと思います。今まで行ったどの実習も相手はマネキンでしたが、ポリクリでは人を相手にして実習を行います。実際に人を相手にした実習は非常に緊張するもので、初めて麻酔を打つ時は注射器を持つ前から手が震えていたのを覚えています。しかし、そういった相互実習を経て様々な事を学びました。頬を圧排する時の痛くない力加減、印象を取る時に生じる危険性、患者が苦しまないチェア角度など、実際の臨床では必ず意識しなければならないことを多く学ぶと共に、今までの実習では意識できていないことを実感しました。正直、ポリクリの内容をガイドブックで読んだとき、CBTの勉強だけでも大変なのに勘弁してくれと思いました。しかし、ポリクリで学んだ内容は後の臨床実習は勿論、CBTやOSCEにも関係する知識であると同時に歯科医師となるには必要



“ポリクリ班の班員と”
筆者前列中央

不可欠な事を学ばさせていただきました。今はまだ臨床実習が始まったばかりで、勉強すればするほど分からないことが出てくる毎日ですが、ポリ

クリで学んだことを最大限に活用して、臨床実習を行っていきたいと思います。

